

VISITS

知財創造教育推進コンソーシアム  
検討委員会（第6回）

2019.6.17

# 会社概要

## 会社概要



- 2001年 東京大学大学院工学系研究科修了
- 2001年 ゴールドマン・サックス入社  
金利オプショントレーディング責任者
- 2010年 アルゴリズムファンド設立 (2014年M&A)
- 2014年 VISITS Technologies設立

Masaru Matsumoto  
Co-Founder/CEO

- 設立 : 2014年6月
- 資本金 : 9億7千万円(資本準備金含む)
- 事業内容 : 共創によるイノベーション創発の拠点となる、会員制コミュニティスペース「HELLO, VISITS」の運営、特許技術「ideagram」を活用した社会課題解決事業を展開

## ミッション

創造性を科学し、  
世界中の誰もが社会価値創造に貢献できる  
エコシステムを構築する

## News

### 日本政府からユニコーン候補に選出

**J-Startup**

日本のスタートアップに次の成長を、  
世界に広げます。

**Vision**

日本では約1万社のスタートアップが日々新しい挑戦をしています。しかし、グローバルに活躍する企業はまだ一部。世界で戦い勝てる企業を作り、世界に新しい革新を提供する。J-Startupは選ばれた企業を官民で集中支援し、成功モデルを創出します。

「ブーム」から「カルチャー」へ。

ここで生まれたヒーローがスタートアップの地位を高め、日本のベンチャーエコシステムをさらに強くします。

**J-Startup企業**

**Startup**

**VISITS Technologies 株式会社**

### 未上場スタートアップでありながら、 将来性を期待されて経団連に入会が認められる

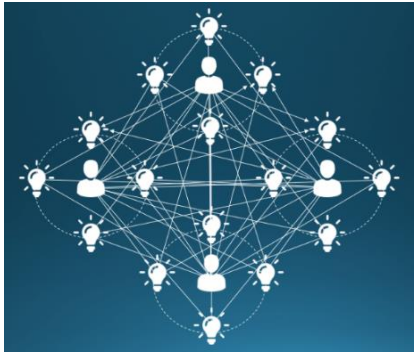
**経団連**

Keidanren

# コンセンサスインテリジェンス(CI)技術\*(特許技術)によるアイデアの適正評価

CI = 定性的な価値を定量評価することで、意思決定を効率化・適正化

## CIとは

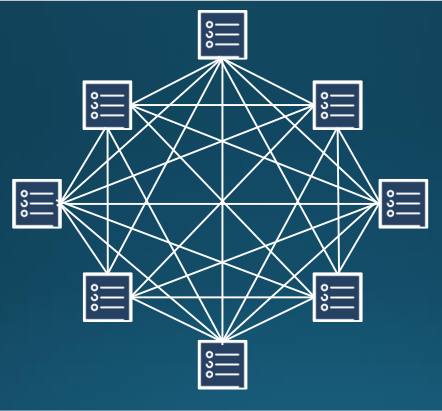


目利き力を踏まえて 1票の重みにウェイトをかけることで、定性的な価値(アイデア等)の定量評価を最適化\*\*

世界有数のヘッジファンドも、**目利きの信頼性にウェイトをかけて意思決定**を行っていると発言

A circular portrait of Ray Dalio, a man with short grey hair, wearing a dark jacket over a light-colored shirt. The background of the portrait is a teal color. Below the portrait, the text reads: "Ray Dalio - Founder, Bridgewater Associates". Below that, a quote in English: "The problem with a democracy is that it assumes that everyone's views are equally valuable. That's just not the case. In order to do this properly, the best way is to do believability-weighted decisions."

## [参考]Googleのページランク



WEBページ間の評価関係(リンク=評価)から「ページの質」を定量化

The cover of the book "Zero to One: Notes on Startups, How to Build the Future" by Peter Thiel. The cover is orange and features a portrait of Peter Thiel. The title "ZERO to ONE" is prominently displayed in white and black text. Below the title, there is Japanese text: "ゼロから何を生み出せるか" and "ピーター・ティール".

“賛成する人がほとんどいない大切な真実はなんだろう？”

\* Consensus Intelligence: コンセンサス・インテリジェンス。多数決によらない評価・意思決定を実現  
\*\* Googleのページランクにアルゴリズムは似ている。Instagramの世界観に置き換えると、インフルエンサーの「1 いいね」をプライシングするもの

# 【事例①】中小企業庁(補助金の案件採択)

## 背景

中小企業向け補助金の審査プロセスでは、数百人の審査員から割り振られた数人の平均点で評価しているが、真に支援すべき案件が選定できているのか確認したい。

## 審査プロセスの課題

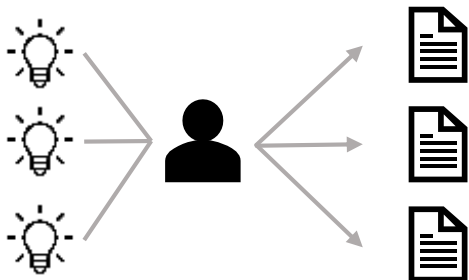
- **審査員の評価貢献度**: 審査員個々の評価貢献度がわからない
- **審査の公平性**: 各応募案件に数人の審査員が割り振られているが、各審査員が同じスケールで点数をつけているかわかあらない
- **審査の効率性**: 審査プロセスの改善余地が十分に検証されていない

## メリット

- **評価力のスコアリング**: 審査員の評価貢献度をスコアリングできる
- **案件のスコアリング**: 審査員の評価貢献度に応じて評価点のウェイトを適正化した上で案件をスコアリングできる
- **審査プロセスの改善**: 適切な審査員の組合せ、効果的な審査手順の提案

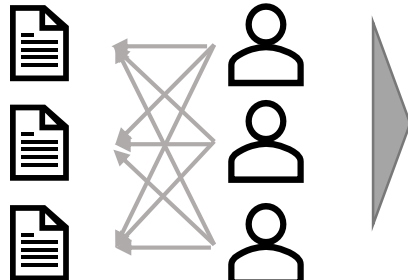
## 創造セッション

審査員が案件の評価コメントをシステムに入力



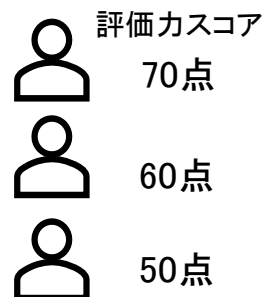
## 評価セッション

他の審査員が評価コメントを評価



## アウトプット(イメージ)

算出された審査員の評価力を踏まえて案件をスコアリング



従来方式	新方式
採択 80点	採択 82点
不採択 65点	採択 72点
不採択 50点	不採択 47点

# 評価貢献度の高い審査員は、多様な視点から明確な根拠に基づく評価を行っており、評価貢献度が低い審査員と比較して納得性が高いといえる

※技術力評価グループ：新規性を評価

事業性評価グループ：経済効果を評価

## 評価貢献度の高い審査員 (Top)

技術力評価グループ



「**XXXX**」による「**XXXX**」機構に新規性と独創性がある。「**XXXX**」の作製のための「**XXXX**」、加工面粗さの目標値は妥当である。



「**XXXX**」機構に分類される内、「**XXXX**」の異なる「**XXXX**」に形成しする新たな方式において、「**XXXX**」を変えて「**XXXX**」の成形性を高め、より実用性を高める点で、革新性はある。なお、この形「**XXXX**」XXXX機構が産業界で受け入れられるかについては、強度についての精査や、作業性の容易さなどの技術的な課題とともに、感性として受け入れ可能かといった、多くのハードルがあると思われる。

⇒結論とその根拠を明示している

事業性評価グループ



「**XXXX**」の「**XXXX**」の評価は極めて高い。事業規模の拡大のために、コスト削減、量産化技術の確立が急務の過大であり、それを打破するための研究開発である。現在までの実績に裏打ちされた直面する「**XXXX**」技術の確立に向けた研究開発テーマ、Process、研究開発体制・役割分担、課程での目標値の設定、スケジュール等が明確に示されている。当該「**XXXX**」関係の無体財産権の世界的戦略についても対応している。これらから、当該研究開発による事業化計画は十分妥当性、実現性があると判断する。

⇒結論とその根拠を明示している

## 評価貢献度の低い審査員 (Worst)



技術的目標値を達成するために機械導入等方策は明確にされている。しかし、機械導入等により新たに発生する技術課題及び解決方法が不明瞭なため、目標値の妥当性が明確でない。



従来の独自技術を踏まえたうえでの新技術の提案である。

⇒結論のみ



他社に比べて差別優位性があり、かつ川下事業者がアドバイザーとして参画しており、事業化計画として妥当である。

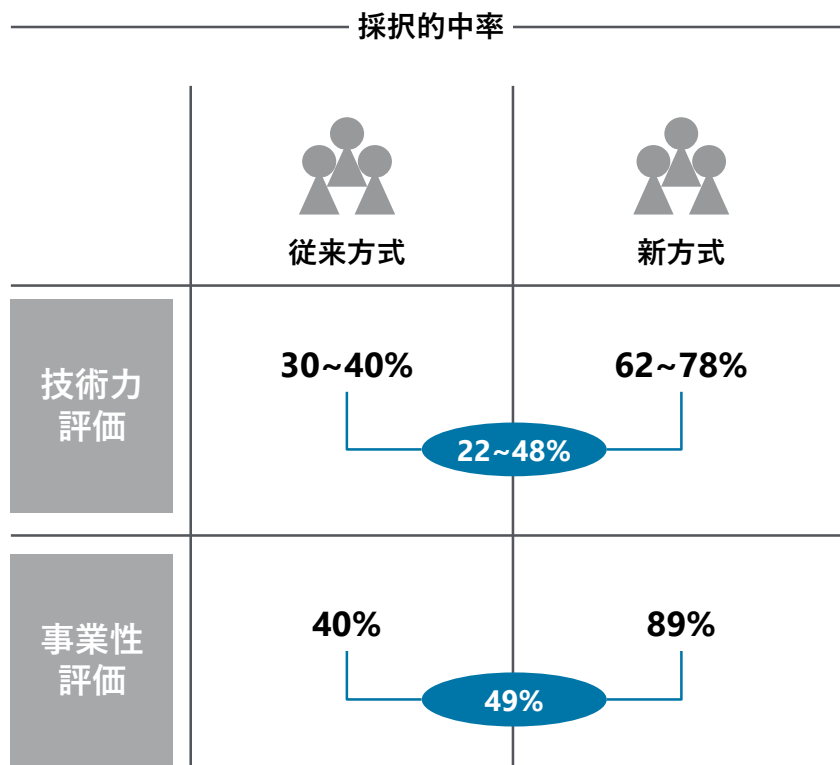
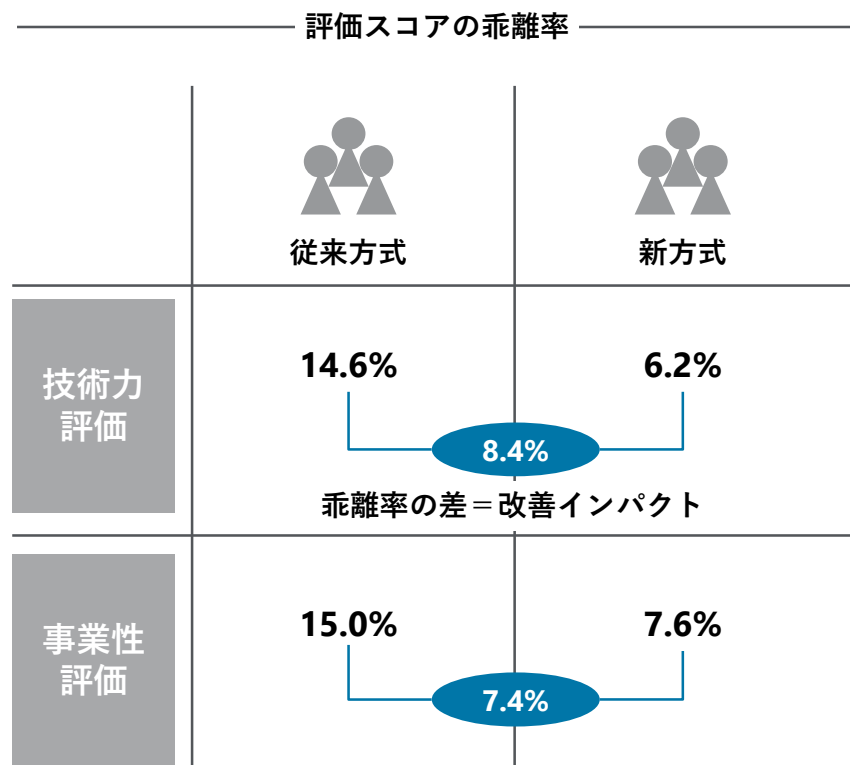
⇒結論のみ



①審査員の評価貢献度を踏まえた審査員の適切な組合せと②評価貢献度による採点の補正を行った新方式では、審査精度が7~8%程度向上し、採択的中率は約20~50%向上する可能性が示唆された

評価貢献度の高い審査員の評価スコアからの乖離率を比較

評価貢献度の高い審査員が選んだ案件を正しく選べた確率(100回シミュレーションした結果)



## 【事例②】経済産業省/厚生労働省(審議会の意見とりまとめ)

### 背景

未来イノベーションWGで2040年の医療介護のあるべき姿とそれを実現するための課題と打ち手を整理。3か月で中間とりまとめが必要。

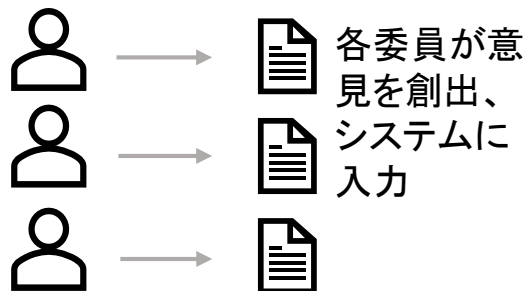
### 会議運営の課題

- **バイアス**: 声の大きさに議論の方向性が決まってしまう
- **議論の発散**: 意見が発散してとりまとめが困難
- **時間的制約**: 限られた会議の回数で結論を得る必要がある
- **委員の欠席**: 会合に欠席する委員の意見を聴取しきれない

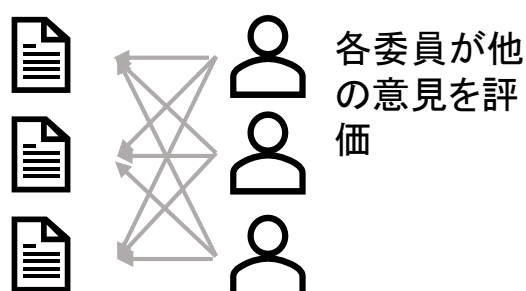
### メリット

- **客観性**: 声の大きさや誰が言ったかではなく、何を言ったかで評価
- **スコアリング**: 意見にスコアがつく
- **予習効果**: 相互評価する際に他の委員の意見を会合の前に目にする
- **事前に意見を整理**: 目利きのある委員が重要と考えるが、他の委員はそうではないと考える意見のリスト化。会合で重点的に議論。

### 創造セッション



### 評価セッション



### アウトプット(イメージ)

